

道博協ニュース 第122号 (2018年3月31日発行)

平成29年度 北海道博物館協会ミュージアムマネジメント研修会が 羅臼町で開催されました！

平成29年度北海道博物館協会ミュージアムマネジメント研修会は10月19日(木)・20日(金)の日程で、羅臼町公民館で開催されました。

研修会には道内の学芸員や博物館関係者が40名参加しました。

1日目は羅臼町公民館を会場に、公的ストックを活かした博物館づくりをテーマに、近年人口減少による学校の統廃合で増加している廃校を活用した博物館施設についての研修が行なわれています。

基調講演は廃校を活用した静岡県立ふじのくに地球環境史ミュージアムの設計を担当された株式会社丹青社の加藤剛氏より、「“学びと遊び”の記憶を活かす！」と題して、学校という特性や空間を活かしながら、考えることを促す博物館づくりについてお話いただきました。

事例報告は、廃校を活用した博物館施設の担当者3名により行なわれています。

羅臼町郷土資料館の事例報告として、「廃校から重要文化財展示施設へ」ということで、廃校から郷土資料館への施設改修と重要文化財展示に係わる改修の2回の改修について事例報告し、学校施設から博物館施設へ改修する際の課題や、廃校という特性による課題として立地等の問題について報告させていただきました。

富良野市博物館の澤田健氏からは、「富良野市博物館の事例」ということで、富良野市博物館の概要と設置の経緯について説明頂きました。そして富良野市博物館の場合のリノベーションによるメリットとして、施設の面積が大きく公民館との複合施設であることから、来館者層の拡大に繋がっていること等を挙げられ、デメリットについては施設の老朽化や展示環境に制限があることについて報告がありました。

北広島市エコミュージアムセンターの畠誠氏からは「北広島市エコミュージアムの事例」ということで、開設までの経緯から施設の改修に



ついてと、開設後の事業の展開等について説明頂きました。また、開設による成果として博物館的な活動の充実、課題としてサテライトの整備等を挙げられており、今後は博物館的な活動とエコミュージアムの活動の両立を図っていくと報告がありました。

まとめでは、帯広百年記念館館長の北沢実氏が座長となり、質疑応答がありました。また、会場からも廃校を活用した博物館施設についての報告がありました。

2日目のエクサカーションは、羅臼町内の施設見学を行ないました。羅臼ビジターセンター、羅臼ルサフィールドハウスでは知床世界自然遺産や国立公園に係わる展示を見学しました。羅臼町郷土資料館では、1日目の研修で事例報告をされた改修内容について、施設を見学しながら改めて説明させていただきました。

最後になりますが、当館も事例報告させていただいたように廃校を活用した施設ですが、やはり長所と短所があります。今回の研修に参加しまして、他館の取り組みを知ることができ、短所を改善するよう検討を図る良い機会となりました。

(羅臼町郷土資料館 学芸員 天方 博章)

道央地区博物館等連絡協議会 NEWS

職員の研修と交流

全国で博物館勃興期に採用された職員の定年期を迎えており、道央地区の各加盟館園でも世代交代が進みつつありますが、それぞれの館内での新規職員の研修については博物館の専門的な内容が必ずしも十分なものと言える状態になく、また他館職員との交流を促進する必要があるとの認識から、主に採用5年以内程度の初任者向け共同研修の実施を検討しています。これまでも研修・人的交流の場として北海道博物館協会の各種事業の場が活用されてきたのですが、各館園における人員・旅費等の削減もあり、会議等と併せた研修へは若手職員の参加が限られてしまうという現状が頭の痛い課題となっています。皆様に実践例や妙案がありましたら、ぜひご教示ください。

さて、前号にて報告させていただきました学芸職員部会研修会に引き続き、平成30年度北海道博物館協会ミュージアムマネジメント研修会の開催地域として準備を進めています。正式なご案内は別途行いますが、9月5日(水)・6日(木)の2日間日程で「持続可能なミュージアムの連携」をテーマに倶知安町で開催予定です。この時期の後志では構成館の収蔵資料(作品)を資源としたユニークな事業展開で知られ



小川原脩記念美術館から望む羊蹄山

る「しりべしミュージアムロード」を開催中で、隣接地域のミュージアムが連携する事業の実例を確認し、相互に研修と交流の場とできるように鋭意計画中です。ご多忙の時期とは思いますが、多くの参加があつてこそ意義の高まるテーマでもありますので、予定の確保をお願いします。昨年の学芸職員部会研修でも重要性を指摘する声が多かった「情報交換会」という交流の場も設定する予定であります。事業連携から調査協力、資料の貸借など活発な情報交換の場となることを期待しつつ、みなさまのご参加をお待ちしております。

(道央地区博物館等連絡協議会
事務局長 細川健裕)

道南ブロック博物館施設等連絡協議会 NEWS

郷土学講座を開催しました

道南ブロックでは、毎年各地の学芸員が講師となって一般向けに地域の歴史や文化を知ってもらう郷土学講座を開催しています。今回は、テーマを「ユーラップのアイヌ文化」とし、八雲町郷土資料館で開催していた「ユーラップアイヌ 椎久コレクション展」と共催しました。八雲アイヌ協会とユーラップレラの会にもご協力いただき、当日は会場の後ろにレラの会作成のルウンペなどの衣服や刺繍作品をお借りして展示しました。

講演は2本立てで、資料館の特別展を担当した大谷から「ユーラップアイヌと尾張徳川家の



レラの会の作品展示

関わり」として、道南におけるアイヌの歴史の概略と、愛知からの移住者とユーラップアイヌの関わりについて紹介し、市立函館博物館で椎

久コレクションの整理・調査に携わった大矢氏からは「市立函館博物館所蔵椎久コレクションについて」として、道南アイヌの一大コレクションである椎久コレクションの重要性と、所有者だった椎久年蔵氏について、肉声のテープを流しながらお話ししました。途中で休憩を兼ねて、会場の展示と資料館の特別展を見てもらいました。

ユーラップアイヌ資料の中核をなす椎久コレクションは、函館博物館に寄贈されており、八雲で展示するのは初めてです。講座だけでなく資料借用も含め、ブロック内で協力し合っ

めることができました。

なお、講座の告知を兼ねてHP上で各地の学芸員が、「道南のアイヌ」というテーマに引っ掛けた記事を投稿しました。普段の毎週一回更新のコラムリレーに替えて、アドベンドカレンダーとして毎日一人が更新して、講座を盛り上げようという企画です。それぞれの専門分野からテーマに取り組んでいて、バラエティ豊かな記事が掲載されていますので、ぜひお読みください。

(八雲町郷土資料館 学芸員 大谷茂之)

日胆地区博物館等連絡協議会 NEWS

平成29年度日胆地区博物館等連絡協議会研修会を開催

平成29年度日胆地区博物館等連絡協議会研修会が、11月14日(火)～15日(水)に様似町で開催されました。

開会式と1日目の研修会は、様似町アポイ岳調査研究支援センターにて開催され、2日目には、様似町内施設及びジオサイトで視察研修を行いました。

今回の研修では、「博物館における関連機関や地域との連携・協力について考える」をテーマに、3つの博物館から発表をいただき、他機関との連携について協議いたしました。

近年、博物館では公民館や図書館などの社会教育施設はもとより、様々な機関との連携が求められています。利用者のニーズや今後の博物館のあり方を考えると、このような他機関との連携は、ますます重要となってくると思われ

ます。そのため、今回の研修会では図書館や学校、他団体等と連携事業を実施している館園にどのような連携を行っているかを発表していただきました。

その後、研究協議として各館における取組事例をあらかじめ返答いただいた研修用紙をもとに説明していただき、課題や実施方法についての意見交換を行いました。

各館園の説明を伺っていると、それぞれ地域に合った取り組みがなされている中で、職員の不足や連携を継続させる難しさなどが課題として多く挙げられていました。

しかし、多くの館園で連携事業が実施されており、限られた中でより効果的な取り組みが行えるような工夫というのも多数聞かれました。



研修会集合写真

【事例報告者】

(1)新ひだか町における取り組み事例

新ひだか町博物館 斉藤 大朋 学芸員

(2)新冠町における取り組み事例

新冠町郷土資料館 新川 剛生 学芸員

(3)伊達市における取り組み事例

伊達市開拓記念館 伊達 元成 学芸員

(様似町教育委員会生涯学習課社会教育係
学芸員 高橋美鈴)

道北地区博物館等連絡協議会 NEWS

常設展示へのAR動画の導入

富良野市博物館では、平成30年1月より、常設展示でAR技術を用いた展示（AR動画）を実施しています。ARは「Augmented Reality（拡張現実）」の略で、実在する風景に仮想的な視覚情報を重ねて表示することで、目の前にある世界を仮想的に拡張するというものです。ゲームのキャラクターがスマホ画面内で目の前の風景に重なって表示される「ポケモンGO」はその代表例でしょう。

当館の場合、例えば林業の資料に、予め専用アプリをダウンロードしたスマホ等の携帯端末を向けると、木遣り歌を歌いながら造材作業をする山子の映像が流れるといった仕組みとし、館内各所にこうしたARのポイントを設置しました。道具の使用場面や方法を具体的に理解できることで、展示から得る学びが一層深まります。

意義はそれだけではありません。博物館の強みは実物資料を見られることであり、元々展示テーマに興味を持っている方は、そこから有益な情報を得ることができそうですが、大多数の方は資料が持つ多様な情報を得られずに終わってしまうことがあります。多くの方に満足してもらうため、博物館の展示では「実物」そのものだけでなく、興味をひくための導入も必要でしょう。インパクトのある一部の実物資料や解説



クマガワのはく製に端末を向けると動画が再生される

パネルなどと並び、AR動画はこの役割を担ってくれると思われます。

設備上の観点からは、ディスプレイが不要という利点がある一方で、継続的な費用負担、観覧者の端末にアプリをダウンロードする手間がかかる、端末を持たない方は見られないなどの欠点があります。しかし、今後端末を持ち、アプリのダウンロードに抵抗感のない人が増えていくことは確実であり、逆にスマホを利用するからこそ、展示に興味を持つ若い世代も増えると期待できます。

AR技術の展示への活用は他にも様々な応用ができるので、今後も展示手法を模索していきたいと思います。

（富良野市博物館 泉団）

網走管内博物館連絡協議会 NEWS

平成29年度網走管内博物館連絡協議会研修会を開催

2月2日、北網圏北見文化センターで、「常呂層産動物化石の同定結果と新発見」と題し、管内博物館職員を対象として研修会を開催しました。

初めに講師としてお迎えした足寄動物化石博物館の澤村館長から、東北北海道の地史と化石について、最新トピックスを交え講演いただき

した。

化石産出地点のプロットだけでなく、化石の産状や包含層からの古環境推定、その地層がどんなプロセスをたどり、現在地に見られるようになったのか、造構運動など地史全体との係わりや他地域対比など、広い視座からの化石の見方について質疑応答を交えながら解説していただきました。

澤村館長には四足動物が専門といいながら、本研修会用にこれらを網羅したテキストも準備いただき、非常に実り多いお話だったと思います。

その後、本研修会テーマ「常呂層産動物化石」

の同定結果について、参加者に実物資料に触れてもらいながら、担当から説明を行いました。

本研修には前段があり、昨年11月8～10日の3日間、北網圏北見文化センター主催で「古生物標本取扱講習会」を、今回同様管内博物館職員を対象として実施していました。

ここでは東京大学総合研究博物館の伊藤泰弘氏と、産総研地質調査総合センターの兼子尚知氏を講師に迎えています。

両氏の目的である古生物標本横断データベース構築と、当方から要望した、地方中小博物館ではなかなか整理、研究等に手をつけられない化石分野の取扱実技（とりあえずの分類同定、クリーニング等）習得を兼ねてのケーススタディでした。

当センター所蔵の常呂層産貝類化石群を素材とし、間違ってもいいとの両氏の指導によるグルーピングと同定結果は、その後北海道教育大学釧路校の松原尚志氏にお出でいただき、貝化石専門家による同定結果を通し、今回研修会で



研修会の様子

のフォローアップとなりました。

化石等、専門性が高い分野における地方博物館支援の一例ですが、今後も本趣旨事業の必要性をあらためて認識しました

(北網圏北見文化センター 館長 太田敏量)

道東3管内博物館施設等連絡協議会 NEWS

～記録が記憶を呼び覚ます～

開拓を支えた鉄路「簡易軌道」に取り組んで

簡易軌道、それは1920年代中頃から1970年代初頭にかけて存在した交通機関で、戦前は「殖民軌道」と呼ばれた。泥炭地・火山灰地が多い道東・道北では融雪期、道路が泥の海と化し入植定着の妨げとなった。その交通困難に対応するため1924

(大正13)年の厚床～中標津を最初に、国鉄駅から入植地へと建設が進む。当初は馬力によった。

戦後、輸送量が大きい路線では軌道を強化、ディーゼルカーも導入された。しかし1960年代に入り急速に整備が進んだ道路に役目を譲り、1972(昭和47)年の浜中町営軌道の廃止によって道内から全て姿を消す。

人々や農産物、日用品の輸送など、半世紀にわたり入植地の生活全てを簡易軌道が支えた。それを振り返ることは、酪農地域史を振り返ることとも等しい。しかし生活に密着した存在でありすぎたため、地元に残された記録は多いとはいえない。

いっぽうでその末期はSLブームとも重なり、北海道を訪れた鉄道愛好家により記録がなされている。書籍やWebで公開されているものもあるが、その多くは鉄道趣味界だけで認知されていた。そこで、それらに一度「里帰り」いただけないかと考えた。結果1千枚以上の写真、また映像や音声、きっぷなどもお借りでき、2016(平成28)年度に企画展「釧路・根室の簡易軌道」を開催した。地元からは「車掌をしていた」「引越荷物を簡易軌道で運んだ」など多くの証言も寄せられた。それらをまとめた記録集は4ヶ月間で約2千部を完売(増補版を今秋刊行予定)、企画展とともに第8回鉄道史学会住田奨励賞特別賞を受賞した。

またNHKアーカイブスに運行当時に制作された番組が存在したことから、NHK釧路放送局と上映会も開催した。これがきっかけとなり、2017年度はNHK釧路局開局80周年記念企画展として「映像でよみがえる簡易軌道と道東開拓のあゆみ」を共同開催することとなった。前年度の展示内容を再構成、さらに軌道の再現や鉄道模型ジオラマなどを加え、スクリーンでは「新日本紀行・根室」「日本の素顔・D階層」など1960年代を中心とした番組6作品を常設上映した。冬の閑散期であったが4週間で3千人もの来場があり、当時を知らない世代、また家族三代で来場される方も

少なくなかった。

記録が記憶を呼び覚まし、そして次世代に。鶴居村では簡易軌道を北海道遺産に選定登録しようと動きが始まった。釧根開拓・産業史の重要な

存在として、当館でも引き続き取り組む予定である。

(釧路市立博物館 学芸員 石川孝織)

日本動物園水族館協会北海道ブロック NEWS

動物園のある街

おびひろ動物園は1963年の7月に開園し、今年で55年目を迎えています。おびひろ動物園が位置する緑ヶ丘公園は北海道立帯広美術館、帯広百年記念館、帯広市児童会館、グリーンパークや野草園などの教育施設が充実し、野生のエゾリス、エゾモモンガが棲息できる緑豊かな環境と、市街地の中心部という立地条件に恵まれています。帯広市民をはじめ、十勝管内や道内外からも多くの皆さんの憩いの場として、さらには動物とのふれあいを通して動物に関する知識と温かい思いやりの心や優しさを感じ取ってもらうような動物園づくりをすすめています。また、2001年には全国の動物園に先駆け帯広市の教育委員会所管施設となり、2003年には博物館相当施設として承認され、教育機関と位置づけられました。動物園は「教育」「種の保存」「調査研究」「レクリエーション」の4つの役割を担っています。自然環境の保全が大きな課題となった今日、「教育」「種の保存」の役割が、ますます重要になっています。動物園が動物を飼育展示する目的と意義は野生動物の生態や行動を身近に学んでもらい、野生動物が暮らすことのできる地球環境の豊かさを知り、命の大切さを再認識してもらうこと、そして人と野生動物が共存できる世界の大切さを理解してもらうことです。

動物園は動物が主役です。中でもインドゾウの「ナナ」は1964年から帯広で暮らしはじめ、今年で56才となりました。冬期間の厳しい環境にもなじみ、長期間飼育できていることは私たちの励みとなっています。多くの入園者にとって世代をこえたところで親しみと記憶を刻むシンボリックな動物となっています。「ナナ」の生い立ちや歴史を伝えることの喜びと必要性を感じています。近年、動物園や水族館では、動物の福祉の観念から動物の生態にあった展示方法が重んじられています。1963年に建設されたゾ



緑の風のナナ

ウ舎は決して快適ではありませんが、飼育員の創意工夫で福祉を向上させることは可能です。おばあちゃんゾウが暮らす姿をこれからも多くの方々にご覧いただき、動物園がある街で良かったと感じていただければ幸いです。今後も北海道の動物園、水族館と連携して動物たちが幸せに過ごし「楽しみながら学べる、学びながら楽しめる」施設として充実させていきます。

(おびひろ動物園 園長 柚原和敏)

学芸職員部会 NEWS

北海道の150年、学芸員にはどう見える？

■学芸職員部会 web「コラムリレー」第5シリーズ、間もなく開始！

コラムリレーは、

- ・北海道各地の自然や歴史、博物館の活動を、
- ・学芸員がリレー形式で、
- ・一般の人に向けて、
- ・わかりやすく紹介する、

毎週1話のネット連載です。第4シリーズは「地域の謎を解き明かせ！学芸員の研究ノート」をテーマに、多くの学芸員が執筆してきましたが、4月初旬の第43回で最終回となります。

続いて始まる第5シリーズは、“北海道の150年”がテーマに決定。今年大々的に繰り広げられている「北海道命名150年」キャンペーンに便乗しちゃいます。

とは言っても、役所やマスコミがやる企画のような「150年間よくやったね」「これからも明るい未来を目指そうね」だけに終わりたくはありません。北海道の真実を残し伝えていく学芸員として、光があれば影もあったこと、人間の歴史だけでなく自然も大きく変遷してきたこと、数十年～数百年というタイムスケールの視点など、様々な見え方があるはず。多様な学芸

員が集まったからこそ見えてくる「北海道の150年」が浮かび上がってくるのではないのでしょうか。

コラムリレー第5シリーズ、5月初めの開始を目指し、執筆者を募集します！「150年前」とらわれず、「100～200年くらい」でもいいし、ゆる～く解釈したほうが面白そう。書いてくれる方は、部会メーリングリストに投稿、もしくは志賀までご連絡ください。

■学芸職員部会調査研究助成、対象事業が決定！

学芸員の資質の向上と、学芸員同士の連携活動の推進を目的とした、この助成。平成29年度は次の3件が採択されました。

(1) 齋藤和範さん(北海道教育大学旭川校)：「様々な講座におけるアイヌの技法復元の試み2/イラクサから糸を紡いで、レタルペを織ってみよう」

(2) 斉藤譲一さん(稚内市教育委員会)他5名：「近世・近代における宗谷地方関連資料調査」

(3) 持田誠さん(浦幌町立博物館)：「道東におけるルーテル教会の形成史」

今年9月までに各事業に5万円が助成され、完了後は部会 web に成果が公表される予定です。

(いしかり砂丘の風資料館 学芸員 志賀健司)

北海道青少年科学館連絡協議会 NEWS

見えない星々の光～メガスター～ 500万個の星々～

今年度は開館以降のべ入館者数200万人を達成するなど様々なイベントを通して賑わいのある一年となった。その中から10月に開催されたプラネタリウム祭りについて報告する。

イベントではプラネタリウムクリエイター大平貴之氏が開発した「メガスターⅡB」を持ち込み、デジタルプラネタリウム「ステラドームプロ」とのコラボレーションで演出効果を高め、3日間限定で開催した。

メガスターは肉眼では判別できない微細な星々500万個以上を映し出すことができる。従来はぼんやりした画像で再現していた天の川もメガスターでは無数の星の投影により描かれる。

晴れてさえいれば星を見上げている私にとって、メガスターはより本物に近い星空を感じさせる。遥か彼方から届いているかのような精細な星々の瞬きは直径15mのドーム内にいることを忘れてしまうほどだ。果たして見えない星まで再現する必要があるのだろうか？その理由を大平氏の講演会で知ることができた。

満天の星空では明るい1等星から肉眼でぎりぎり見つけることができる6等星以外の背景にもほんのりと明るさが感じられる。それは「見えない星々の光」に満ちているからだ。星空の

下で覚える感動や安らぎに、この背景の淡い光は欠かせない。遠い無数の星々から届くかすかな光は漆黒の闇をそっと埋め尽くし、そして、明るい星々をよりいっそう美しく引き立てている。

このことは地上に暮らす私たちにも通ずるものがある。社会も1等星だけでは成り立たない。名前を知りこともない、生涯会うこともない多くの人々により人も社会も支えられているからだ。

大平氏とステラドームプロの開発者上山治貴氏と話す機会をいただいた。二人はともに少年時代に得たプラネタリウムでの感動を形にして伝えたいという想いからその道に進んだという。その想いをお客様に伝えていくのが私の仕事だ。彼らとの出会いも、そして自分にその役目が与えられたのも社会を支える多くの人々の存在が



プラネまつりメガスターⅡB 投影の様子

あってこそ。そのことを想い、駆けつけてくれたお客様に改めて感謝したイベントであった。

(北網圏北見文化センター 学芸員 多田成寿)

北海道美術館学芸員研究協議会 NEWS

道東発・2人のアイヌ民族美術展

アイヌ民族の文化が北海道各地で取り上げられている昨今、美術分野において釧路発の大きな展覧会が二つ昨年開催された。「床ヌブリ展」<釧路市立美術館 2017年9月30日(土)～11月12日(日)>、「現れよ。森羅の生命—木彫家 藤戸竹喜の世界」<札幌芸術の森美術館 2017年10月14日(土)～12月17日(日)>である。

床ヌブリ・藤戸竹喜の二人は同地域・同世代のアイヌ民族木彫家として切磋琢磨しながら、それぞれ写実や物語性をテーマに独自の世界を生み出した。道東・阿寒湖畔を舞台に制作を続けてきた2作家の回顧展が、同年に開催されるというのは奇縁というしかない。

アイヌ民族にとって木彫は生活の糧となる生業であり、表現の手段ともなってきた。作品には独特の精神、神々の世界、生活文化が色濃く反映されている。これまで旭川の砂澤ビッキが先駆者として注目を集めてきたが、続く作家が顕彰されていくことで、アイヌ美術をより多角的、重層的に捉えることができるようになるだろう。



「藤戸竹喜の世界」展は国立民族学博物館(大阪府吹田市)へも巡回している。また、2020(平成32)年、白老町にオープンする「民族共生象徴空間」(象徴空間)もいよいよ本格化してきた。今後より一層注目が集まることだろうアイヌ民族の美術・文化に、美術館・博物館が協力しつつ、広く深く顕彰されていくことを期待したい。

(釧路市立美術館 館長補佐 瀬戸厚志)

イベント情報

会員館園の主な企画展と普及行事等 平成30年4月～平成30年6月

詳細は各館園にお問い合わせください

石狩

北海道大学総合博物館 (011-706-2658)

期間	タイトル
4/8	講座「バイオミメティクス市民セミナー」
4/14	講座「土曜市民セミナー」
4/27～6/17	企画展「地質の日記念展示『北海道のジオサイトに見る岩石』」
5/5	講座「バイオミメティクス市民セミナー」
5/12	講座「土曜市民セミナー」
6/2	講座「バイオミメティクス市民セミナー」
6/9	講座「土曜市民セミナー」

いしかり砂丘の風資料館 (0133-62-3711)

期間	タイトル
4/22	野外講座「石狩ビーチコーマーズ／春の海辺の漂着物」
4/28～6/24	テーマ展「海辺のもぐもぐ～歯型に見える海の生態系～」

北海道立文学館 (011-511-7655)

期間	タイトル
4/17～6/17	常設展「アーカイブ『薯版画で描く北の情景』」
4/20～6/24	特別展「没後50年 子母澤寛 無頼三代蝦夷の夢」
4/21・28、5/6・20	講演会「特別展『子母澤寛 無頼三代蝦夷の夢』関連の講演会」
4/22、5/19、6/3・16	ギャラリーツアー「特別展『子母澤寛 無頼三代蝦夷の夢』の展示説明」
5/4・9・16	朗読会「特別展『子母澤寛 無頼三代蝦夷の夢』関連の朗読会」
5/5、6/2	わくわくこどもランド
5/10、6/7	朗読会「月例朗読会『北の響 名作を声にのせて』」
5/27、6/3・24	映画鑑賞「特別展『子母澤寛 無頼三代蝦夷の夢』関連の映画会」

小原道城書道美術館 (011-552-2100)

期間	タイトル
4/6～7/31	企画展「日下部鳴鶴と門流展」
4月	ギャラリートーク (講師未定)
5月	ギャラリートーク (講師未定)
6月	ギャラリートーク (講師未定)
7月	ギャラリートーク (講師未定)

北海道博物館 (011-898-0456)

期間	タイトル
4/14	自然観察会「エゾアカガエルのラブコールを聴こう」
4/21	古文書講座「ゆとり古文書講座 (全3回) 第1回」
4/27～6/3	企画テーマ展「野幌森林公園いきもの図鑑」

5/6	ちゃれんが子どもクラブ「鳥を呼ぶバードコールをつくろう！」
5/13	ミュージアムカレッジ「のっぽろの森の生き物たち」
5/19	自然観察会「落ち葉の下のカタツムリをさがそう」
5/19	古文書講座「ゆとり古文書講座(全3回)第2回」
5/20	ミュージアムカレッジ「民具の変化からみる近現代のアイヌ文化—荷縄」
6/3	ちゃれんがワークショップ「縄文土器をつくる(全2回)第1回 つくる」
6/10	講演会「昆虫写真家 海野和男の生きもの写真のススメ」
6/16	古文書講座「ゆとり古文書講座(全3回)第3回」
6/17	ミュージアムカレッジ「アイヌの子守歌・諸民族の子守歌」
6/24	ちゃれんがワークショップ「縄文土器をつくる(全2回)第2回 焼く」
6/30~8/26	特別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」

札幌市円山動物園 (011-621-1426)

期間	タイトル
4/14~29	写真展「フォトコンテスト応募作品展示会」
4/14~5/20	絵画展「アースデイ絵画コンクール展覧会」
4/15	イベント「飼育の日」
4/22~5/6	写真展「動物園の森 写真展」
4/28~5/6	イベント「円山動物園ゴールデンウィーク」
5/19~20	イベント「第12回 アースデイ in 円山動物園」
7/26・30	イベント「子どもの一日飼育係」
7/28	イベント「ハーティナイト」
7/29	イベント「Day Camp」
7/30	イベント「チリモン観察会」

北広島市エコミュージアムセンター知新の駅 (011-373-0188)

期間	タイトル
4/28~11/3	史跡旧島松駅通所の開館

空知

三笠市立博物館 (01267-6-7545)

期間	タイトル
3/13~5/6	企画展「北海道のアンモナイト ~アルピアン編~」
4/28~30	見学ツアー「探検!はくぶつかん」
5/3~6	体験/見学「化石博士になろう!2018GW」

滝川市美術自然史館 (0125-23-0502)

期間	タイトル
6/16~8/26	北海道150年/滝川市制施行60年記念特別展「高畑利宜のイシカリ探検とアイヌ美術の世界」
6/30	普及事業「空知川化石採集」

後志

岩内町郷土館 (0135-62-8020)

期間	タイトル
4/10~5/13	企画展「第1回企画展『郷土館お宝・珍品展パート4』」
5/19~6/24	企画展「第2回企画展『二葉座開業150年記念 岩内の演芸文化』」

5/27～29	視察研修「松浦武四郎、松尾芭蕉の生誕地を訪ねて」ツアー協力
6/30～9/24	企画展「第3回企画展『松浦武四郎と岩内地方パート1』」

小樽市総合博物館 (0134-33-2523)

期間	タイトル
4/1～7/22	プチ企画展「こんなにすごい！蒸気機関車アイアンホース号」
4/7～6/28	トピック展「紙芝居と戦争」
4/14・15	体験「屋外展示車両シートはずし体験」
4/15	自然観察会「早春の山中海岸を歩く」
4/21	ミュージアムラウンジ「9.5mmフィルムに残された小樽の黄金期」
4/22	科学技術週間協賛イベント「いろいろな方法で発電してみよう」
4/28～30、5/3～6	体験「重要文化財の転車台にのってみよう！」
4/28～5/6	特別公開「雪払車・車掌車特別公開」
4/28～7/16	企画展「フォリー神父とオタルスグー ー小樽にきた伝説の植物採集家ー」
4月土日祝(21・22日除く)	講座「チャレンジラボ『スーパーボール作り』」

西村計雄記念美術館 (0135-71-2525)

期間	タイトル
2/23～7/8	展覧会「春から夏の展覧会『西村計雄 制作の過程』」
2/23～7/8	展覧会「おやこで楽しむ展覧会『こどもたち・こどもたち』」
4/21	イベント「美術館探検会」
5/12～7/1	イベント「展示作品人気アンケート」
5/19	講座「トライアート&カフェ・フルール」
6/24	イベント「西村計雄生誕記念イベント(コンサート等)」

渡島

市立函館博物館 (0138-23-5480)

期間	タイトル
4/1～6/24	常設展「収蔵資料展」
通年	学芸員の特別講座「行ってみよう！博物館『博見学のススメ』展示解説」
通年	学芸員の特別講座「行ってみよう！博物館『博見学のススメ』バックヤード・ツアー」
4/1～11/4	学芸員の特別講座「行ってみよう！博物館『博見学のススメ』見せます！お宝公開！」
4/1～11/4	学芸員の特別講座「行ってみよう！博物館『博見学のススメ』明治の博物館見学」

北海道立函館美術館 (0138-56-6381)

期間	タイトル
4/7～8/26	常設展「ふしぎの国のいきものたち ちょっとこわくて、だけど気になる。」
4/7～8/26	常設展「金子鷗亭 ふるさと・北をうたう」
4/28	松寶丸ギャラリー・トークと祭囃子・切声
4/28～6/13	特別展「北海道 150年事業 アートギャラリー北海道 北のさきがけ 道南四都物語 港町江差 城下町松前 開港地函館 開拓地伊達」
4/29、5/6・13	ギャラリー・ツアー
5/3～5	ファミリー・ツアー
5/19	「松前神楽」
5/26	マジカル・ワークショップ「友禅染に挑戦！」

5/27	江差追分コンサート
6/3	講座「カフェ&トーク 幕末珈琲を味わう」
7/14～8/26	特別展「奇才・ダリ版画展 炸裂するシュルレアリスムの世界」

八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館 (0137-63-3131)

期間	タイトル
4/28～8/26	企画展「熊大工 加藤貞夫の木彫り熊」
6/23	講演会「熊大工・加藤貞夫について (仮)」

胆振**室蘭市民俗資料館 (0143-59-4922)**

期間	タイトル
4/15	とんてん館寺子屋教室「しいたけ植菌」体験学習会
5/5 (予定)	民俗資料館フェスティバル

日高**沙流川歴史館 (01457-2-4085)**

期間	タイトル
4/24～5/27	沙流川歴史館企画展「日高の石 ～身近な変わった石～」

えりも町郷土資料館・水産の館 (01466-2-2410)

期間	タイトル
6/23・24	猿留山道を歩く会 (兼第27回全道フットパスの集い)

上川**中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館 (0166-46-6277)****【本館】**

期間	タイトル
通年	常設展「中原悌二郎と中原賞の作家たち」
2/17～6/24	企画展「粘土箱の中の宝石― 木内克展」
6/30～9/24	企画展「長澤裕子展 (仮)」

【ステーションギャラリー】

期間	タイトル
2/17～4/22	企画展「粘土箱の中の宝石― 木内克展」
4/28～6/3	企画展「紙飛行機の造形展 (仮)」
6/5～7/1	企画展「旭川デザインウィーク関連展『JIA 北海道建築展 2017 巡回展旭川』」

中川町エコミュージアムセンター (01656-7-2877)

期間	タイトル
5/3～5	化石アイテムづくり
7/1	地層観察教室
7/27～29	森の学校 第17次中川町恐竜発見調査

北海道立旭川美術館 (0166-25-2577)

期間	タイトル
4/1～15	特別展「アート・クイズ・ギャラリー」
4/1～15	常設展「HOKKAIDO 北の美術セレクション」
4/26～7/1	特別展「魂を ^{えぐ} 剥る美が欲しい 魯山人の宇宙」
4/26～11/7	常設展「姿/Figure 一かたちの思惑」
7/12～9/2	特別展「ユニマットコレクション フランス近代絵画を珠玉のラリック展」

富良野市博物館 (富良野市生涯学習センター) (0167-42-2407)

期間	タイトル
4/14～5/20	絵画展「安田律子漆絵展～森に聴く～」
4/21	体験講座「アートを楽しもう～漆絵に挑戦」
4/28	自然観察会「富良野の自然に親しむ集い」
6/9	自然保護事業「オオハンゴンソウ抜き取り大作戦」

網走

美幌博物館 (0152-72-2160)

期間	タイトル
3/24～7/1	特別展「大美博展」
4/11・13	プチ工房「ストローで作るコースター」
4/21～5/15	ロビー展「お宝見せます」
4/28	イベント「国際博物館の日記念行事」
4/29	観察会「化石を見つけよう」
5/5	イベント「こどもの日記念行事」
5/9・11	プチ工房「化石を掘り出そう」
5/26	講演会「とからち石はどこから来たの？」
6/2	観察会「太古の化石トンボを見に行こう」
6/13・15	プチ工房「切り絵の生き物を楽しもう」

博物館 網走監獄 (0152-45-2411)

期間	タイトル
4/28～7/29	企画展「刑務所近代化の歴史とそれを支えた人々」
5/3～5	特別イベント「昔のおもちゃ作り」「昔の遊び体験」「かしわ餅作り実演」
5/3～5	年中行事「端午の節句 兜を作ろう」
5/20	ワークショップ「農園体験①」
6/10	ワークショップ「農園体験②」
6/17・24	体験講座「お手軽陶芸体験！オープン陶土でカップを作ろう」

北海道立北方民族博物館 (0152-45-3888)

期間	タイトル
4/14～5/20	ロビー展「ノーザンギャラリー イヌイトの版画①」
4/21	はくぶつかんクラブ「アイヌの文様で作るレターケース」
4/28～5/20	ロビー展「北海道150年記念展示(北海道庁測量標石網走天測点)」
5/3～5	イベント「ゴールデンウィークイベント」
5/6	映像上映会「北方民族博物館映画館 春」
5/19	講座「アイヌ語地名の近現代史を考える」

5/26	はくぶつかんクラブ「土器づくり」
5/27	見学会「道立オホーツク公園・北方民族博物館施設見学会」
6/2	館長講座「コトバがなくなる?! 言語の危機と博物館のかかわり」
6/2～7/1	ロビー展「森と川の民ウデヘーロシア・沿海地方の狩猟文化と工芸」
6/9	講座「ロビー展展示解説会」
6/10	講座「シベリアの狩猟文化」
6/23	講習会「白樺樹皮のバスケット作り」

紋別市立博物館 (0158-23-4236)

期間	タイトル
5/12	番屋講座「紋別公園の山菜と毒草を学ぼう！」
6/9	番屋講座「草花あそび」
7/14	番屋講座「七夕飾りを飾ろう！」
7/28～8/19	特別展「和の灯り」
7/31	体験教室「子ども考古学体験『縄文土器作り体験』」

北網圏北見文化センター (0157-23-6742)

期間	タイトル
2/17～6/10	蔵出し資料展「はかる～暮らしの計量器具」
4/21～5/20	北の切り文様展
4/21～5/20	漂着物展
5/12	文化財めぐり「常呂遺跡をあるく」
5/19	科学技術週間イベント「宇宙パラシュートを作ろう！」
5/27	自然観察会「春のワッカ原生花園を訪ねて」
6/16	ボランティア見学研修
6/17	自然観察会「クリンソウの森を訪ねて」

十勝**帯広百年記念館 (0155-24-5352)**

期間	タイトル
4/14～5/6	ロビー展「五月人形展」
4/21	博物館講座「十勝地方を記録した人々ー松浦武四郎・田内捨六・内田濤・河野常吉ー」
5/21	博物館講座「大地を見る・食べる・学ぶ～白滝ジオパークの取り組み」
6/1～30	ロビー展「荘田喜與志コレクション13 昭和からの伝言」
6/16・23	博物館講座「レコードと音の文化史29・30」
7/21	博物館講座「ものがたりの昆虫6」

釧路**釧路市子ども遊学館 (0154-32-0122)**

期間	タイトル
3/24	天体観測会「星空キャラバン スマホで月を撮影しよう」
3/24～4/4	企画展「春休みイベント『春みつけ!カラフルイースター』」
4/28	天体観測会「星空キャラバン 月と宵の明星」
4/28～5/6	企画展「GWイベント 木のおもちゃであそぼう!」

釧路市立博物館 (0154-41-5809)

期間	タイトル
4/7～6/3	企画展「『北加伊道・松浦武四郎のエゾ地探検』 関屋敏隆絵本原画展」
4/15、5/13、 6/17、7/15	観察会「春採湖畔探鳥会」
4/21・22	展示解説「ようこそ釧路へ」
5/5	体験講座「博物館で遊ぼう」
5/13	関屋敏隆氏講演会「絵本『北加伊道・松浦武四郎のエゾ地探検』が生まれるまで—旅の大師匠 松浦武四郎に惚れて」
5/19、6/16、 7/21	観察会「春採湖畔草花ウォッチング」
5/27	観察会「初夏の探鳥会（釧路町森林公園）」
6/3	企画展「歴史探訪会「まちなみ散歩」」
6/6～7/8	企画展「タンチョウイラスト展」
6/9、7/14	観察会「しらべてみよう春採湖の昆虫」
7/14～9/30	企画展「生物細密画展（タイトル未定）」

北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)

期間	タイトル
4/14～6/13	<small>はちのへあきお</small> 八戸耀生写真展 風に導かれ 僕は旅をする
4/14、6/2	八戸耀生展アーティスト・トーク
4/21、5/5	八戸耀生展ギャラリー・ツアー
4/21～5/13	〈我が家の名品〉展 市民コレクションの精華 第1期
4/28	アートシネマ館「日の名残り」
5/19～6/10	〈我が家の名品〉展 市民コレクションの精華 第2期
5/19	ギャラリー・トーク「写真から読み解く北の昆虫講座」
5/26	アートシネマ館「幸せのキセキ」
6/3	ワークショップ「立体写真をつくろう」
6/30	アートシネマ館「おくりびと」
6/22～8/26	イヌイットの壁かけ展
7/25～8/19	夏のキッズ・アトリエ

事務局からのお知らせ

■ピリカ旧石器文化館リニューアルオープンのお知らせ

会員館であるピリカ旧石器文化館では、冬季休館中に実施していた展示改修工事が完了し、平成30年4月1日よりリニューアルオープンいたします。この展示リニューアルと開館15年周年を機に、施設入館料が無料化されることとなりました。この機会にぜひご利用ください。

ピリカ旧石器文化館 瀬棚郡今金町字美利河 228-1 電話 0137-83-2477
 開館時間 午前9時30分から午後4時30分まで（月曜定休）
 入館料 無料

■会費納入のお願い

当協会の活動は会員の皆様の負担金（会費）で運営されています。年会費は、団体会員15,000円、賛助会員20,000円、個人会員3,000円です。以下の口座までお願いいたします（振込手数料はご負担くださいますようお願い致します）。

【銀行口座：北洋銀行厚別中央支店（普）0287000 北海道博物館協会会長 石森秀三】

【郵便振込口座：02770-2-29419 北海道博物館協会】

■北海道博物館協会ホームページ <http://www.hkma.jp>

■学芸職員部会ホームページ「集まれ！北海道の学芸員」 <http://www.hk-curators.jp>

道博協ニュース 第122号

発行日 2018年3月31日

発行者 北海道博物館協会

北海道博物館協会事務局

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2 北海道博物館内

電話：011-898-0456

メールアドレス：dohakukyo.jimukyoku@gmail.com